

農稼業史

後篇

五

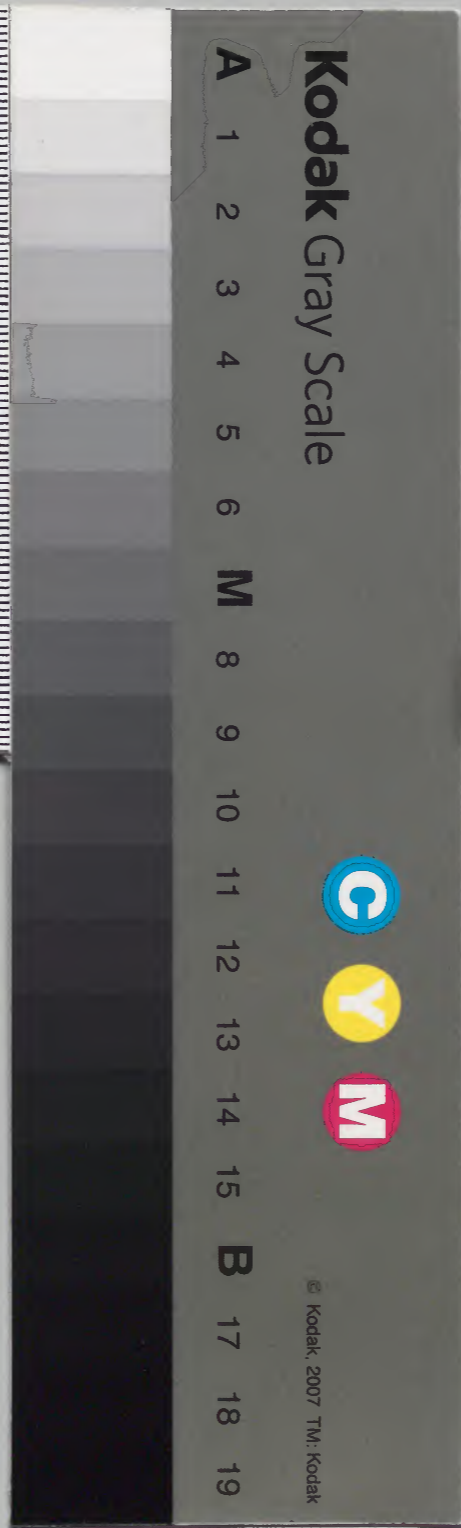
農商省  
和圖書  
第八  
冊

大政官文庫  
和書門  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十

內閣文庫  
和  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十

內閣文庫		
番號	和	11178
冊數	10	( 5 )
函號	183	92

耕種





農稼業事後編卷之五

大藏永常 編録



十八て農人、田畑を修め、のをもくば、川香清、植善法

未れにて心得ざれば、大い、損失有り、たゞ、川辺に任

馴る農人の出水、防の法、能く、たゞ、之とも

其國、所れ、風俗のよ、し、て、此國の便利なる業、及び、其

く、つ、お、の、依、白、手、緒、固、く、摸、寫、置、く、て、爰、で、一

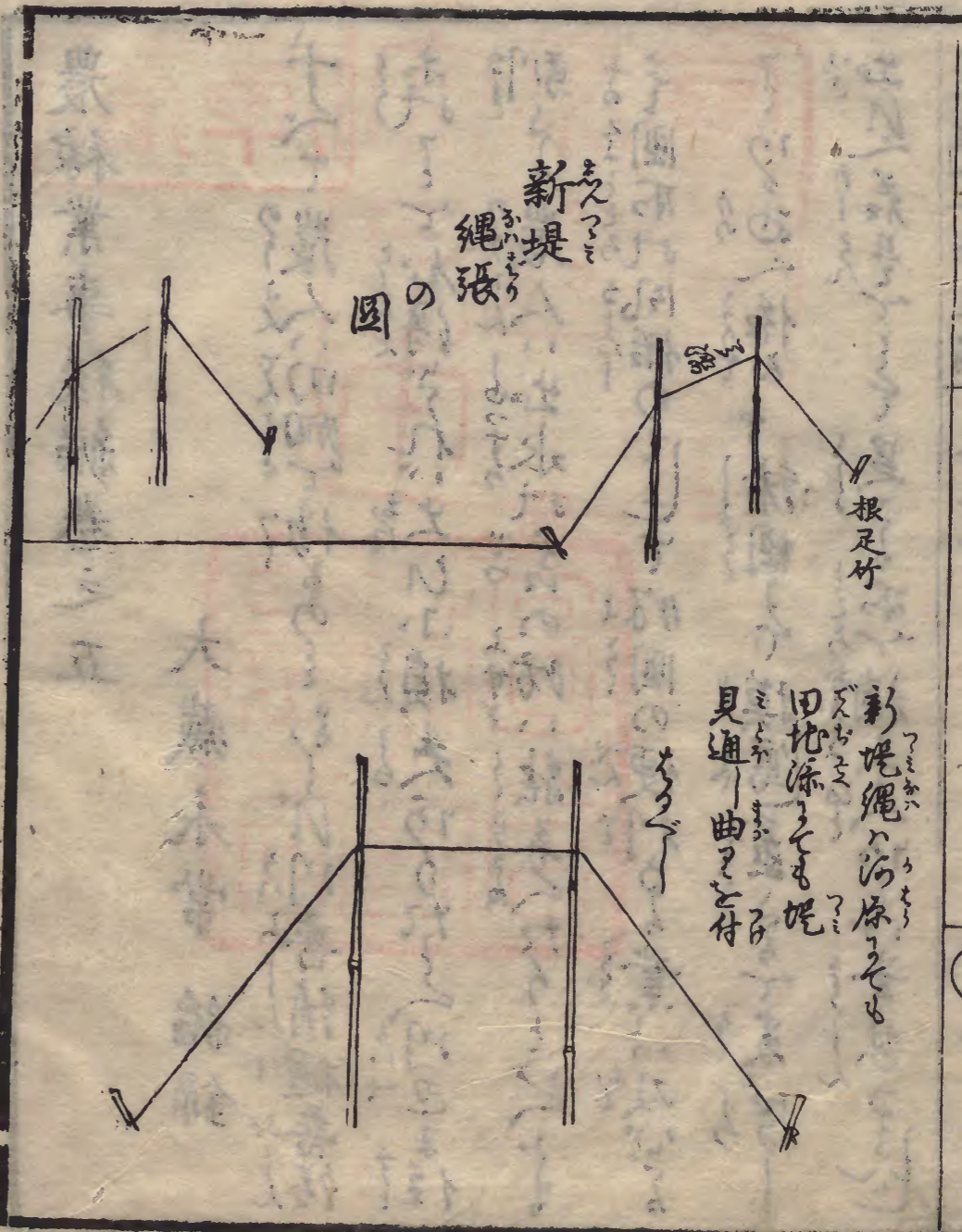
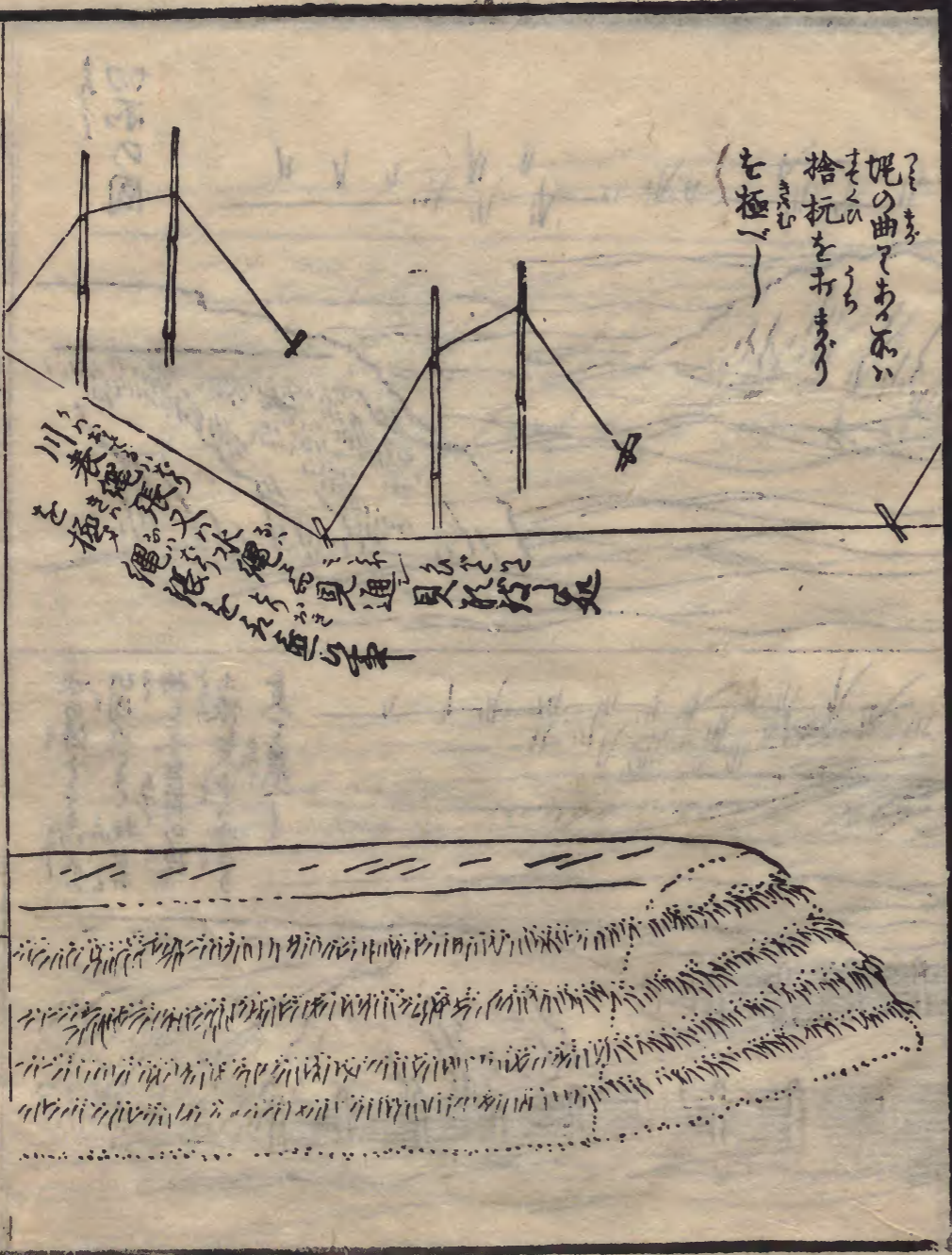
知、れ、之、若、き、て、之、を、是、ご、る、不、々、補、ふ、人、何、ん、幸、甚、な、ら、ん

農稼業事後編 卷之五

明治十一年



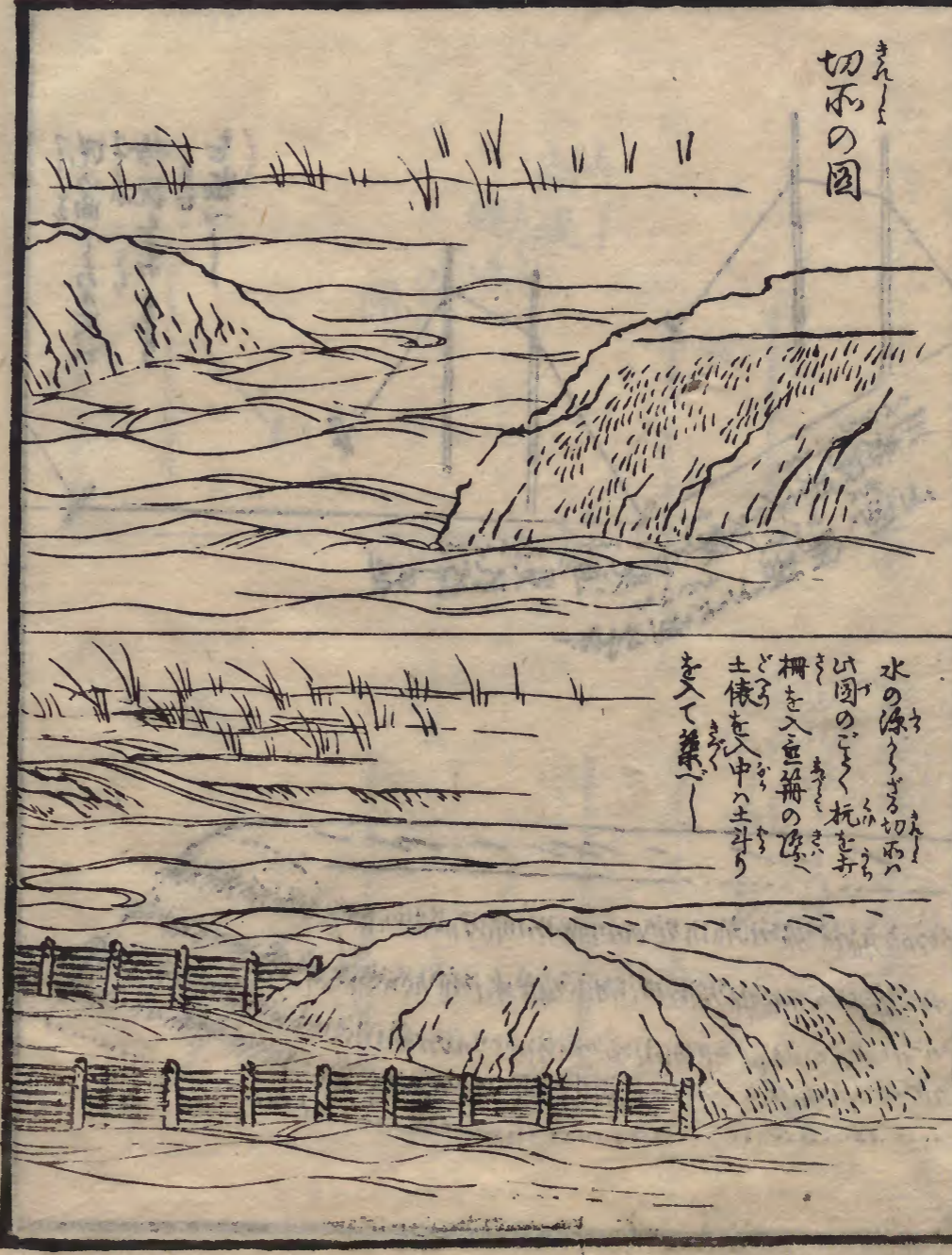
川原の堤防の図



川原の堤防の図



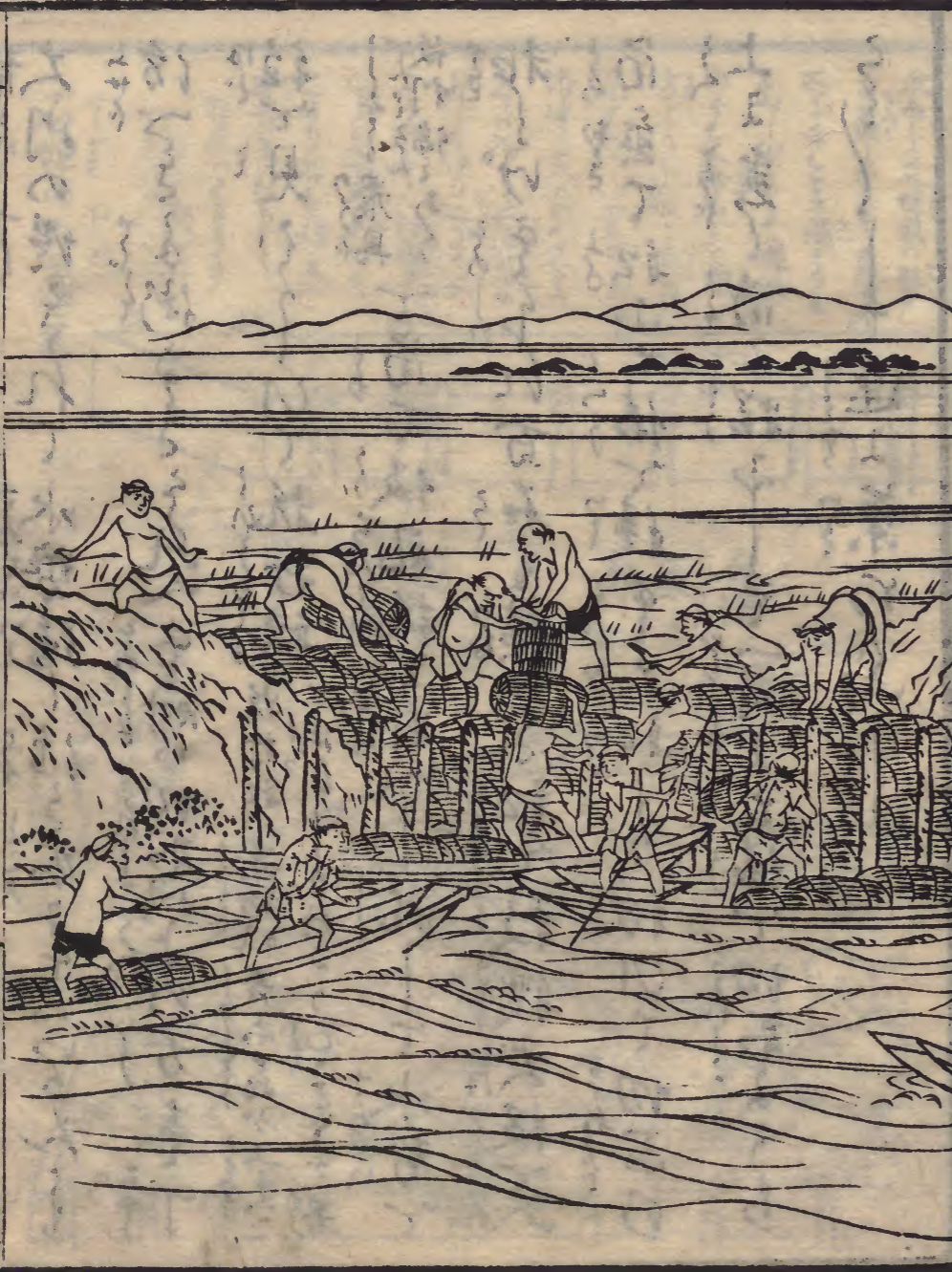
切水の園



水の流るる切水の園のこゝ杭をお  
柵を入る柵の邊  
と俵を中へ土斗り  
を入れて築く





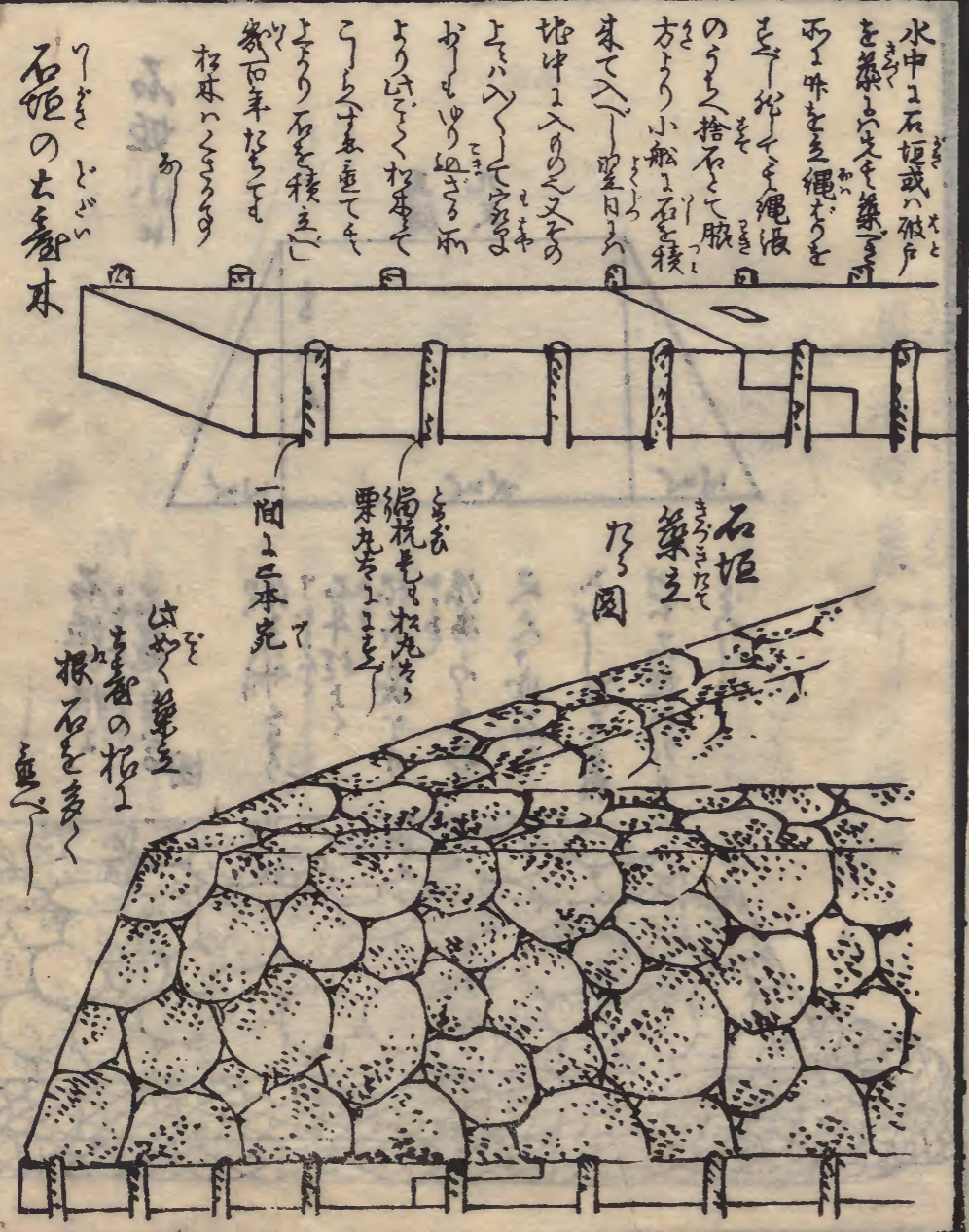


大切西を  
さぐる団





大河の堤を築き水勢強し流るる所を  
 防ぎて水勢弱し流るる所を  
 防ぎて見ゆるはて抗打船  
 抗打船は高砂の若木が工夫  
 して用いりてなりて已に著  
 農具として留て仮丸杭で打べし  
 して水勢を  
 和らげしむるに百石も積べし  
 船と較べし大船より狭し  
 て切馬の  
 上より垂る留る指し  
 して一時よ去儀を切馬より  
 速く築りて  
 速く築りて

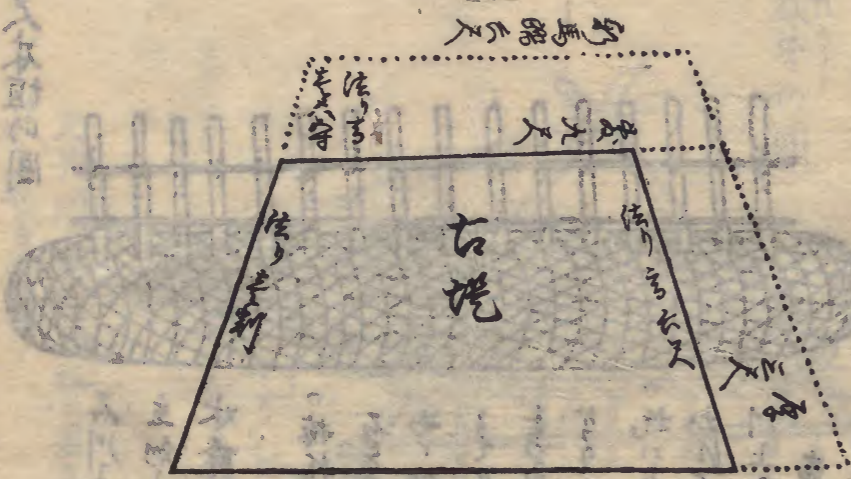


農家業事後編

巻之五

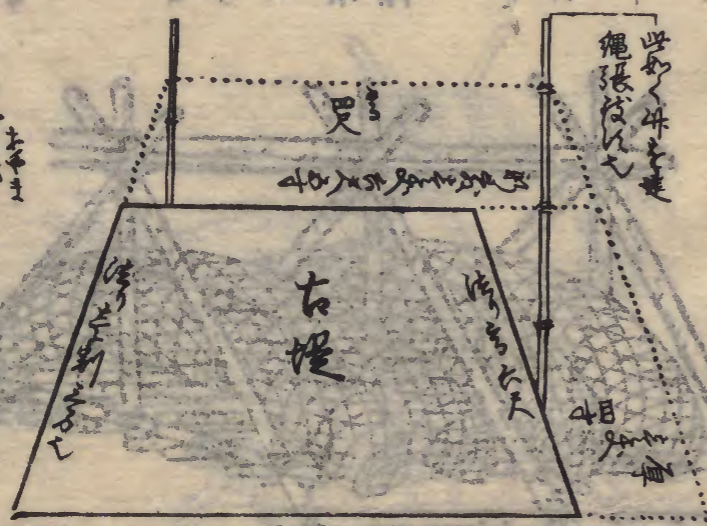
五



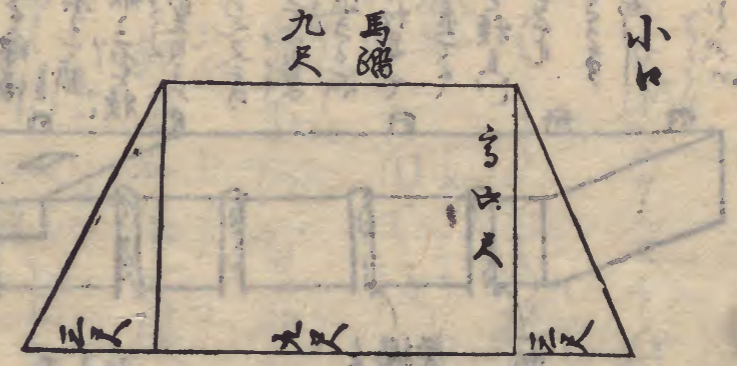


貝形堤築りの仕法

けりて築へ保るるなり

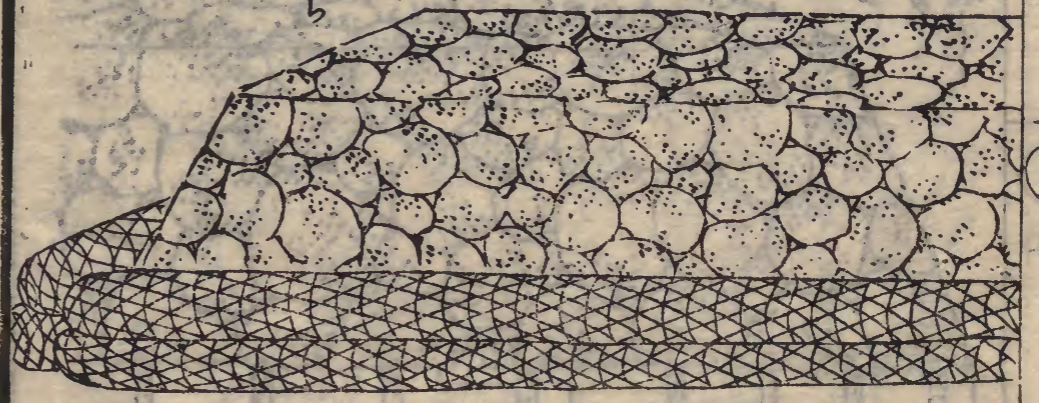


石垣小



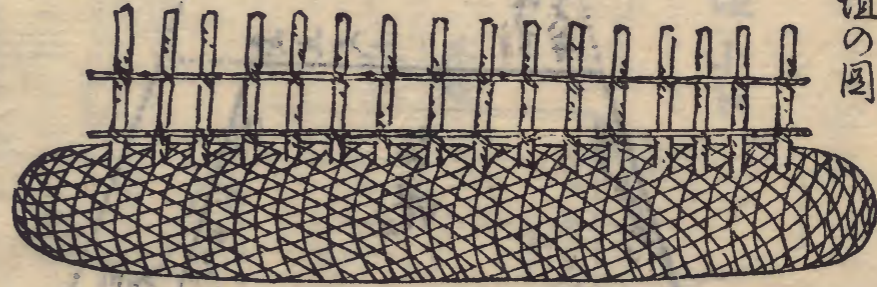
石垣の根  
石籠なる

石籠なる  
根石の根なり  
又火成石を  
入べし根石を敷  
けし石垣のたより  
なり





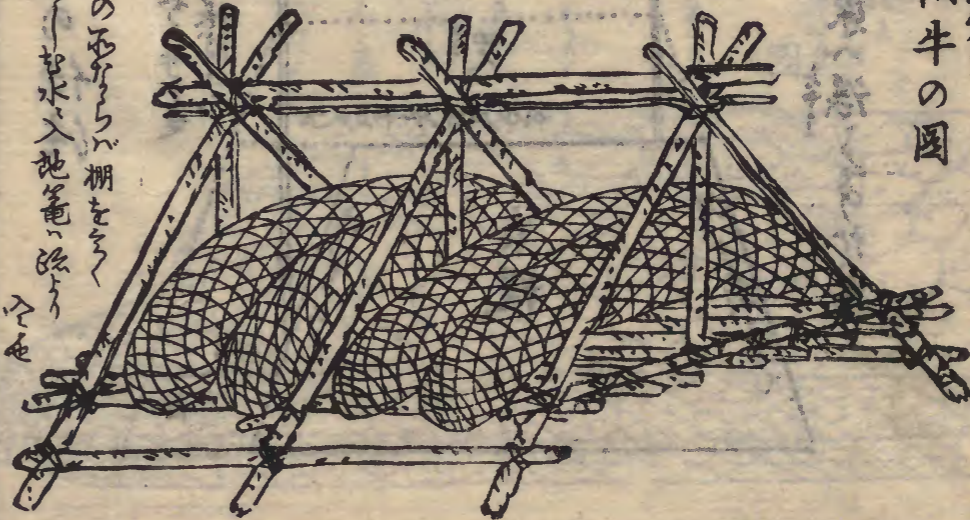
又本垣の図



石川を杭木不  
立知て用方  
水除なり

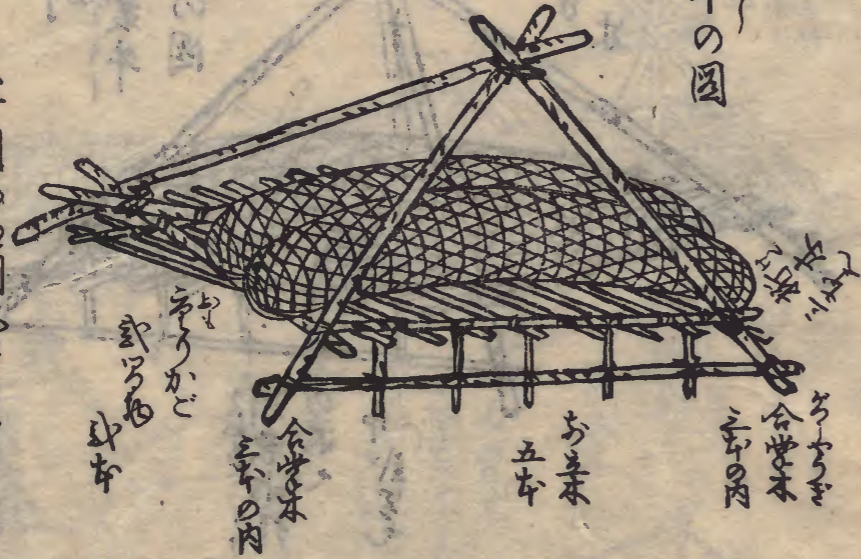
○梅紙の地巻  
石を二尺の圓の  
ゆく竹を木  
もももまふ石  
をつの横舟を結  
なり  
○杭の上を二尺やど  
出匠一横竹の  
川上の方より  
畜下

棚牛の図



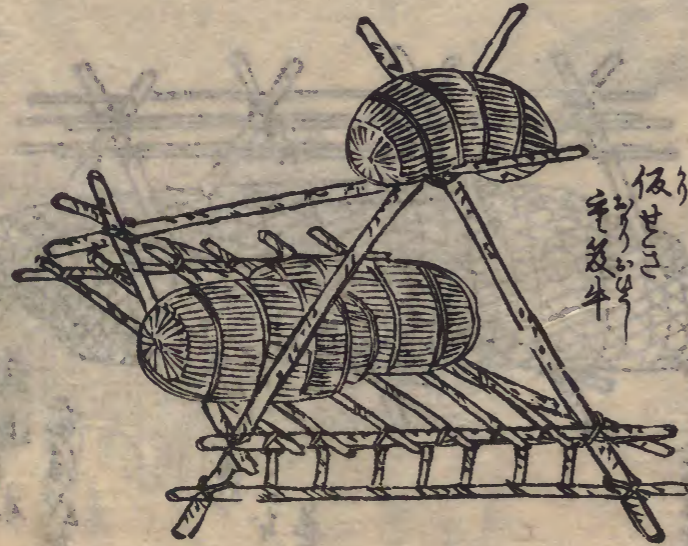
水まの石がら棚をさく  
結立一で水入地籠の流より  
下を

後牛の図



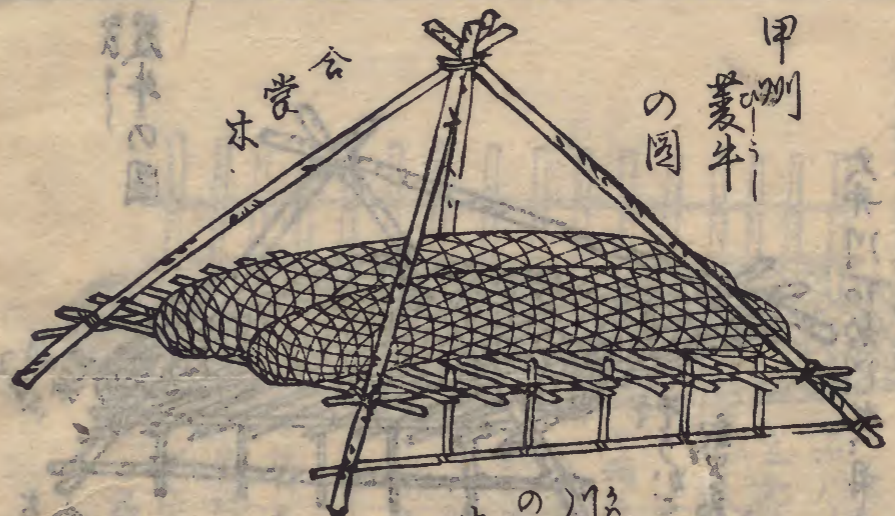
大井川の船門板用方  
水をきかり

ちかつき  
合巻木  
二尺の内  
お米  
五本  
合巻木  
二尺の内  
お米  
五本



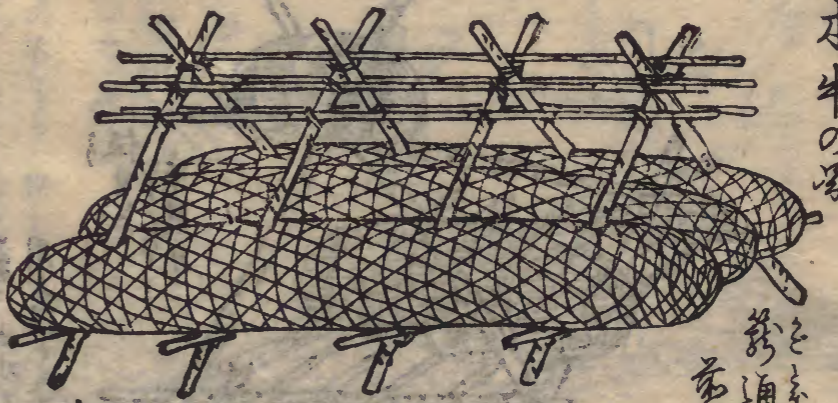
飯せこ  
お米  
後牛  
大井川の水をさく  
用表のよのよ





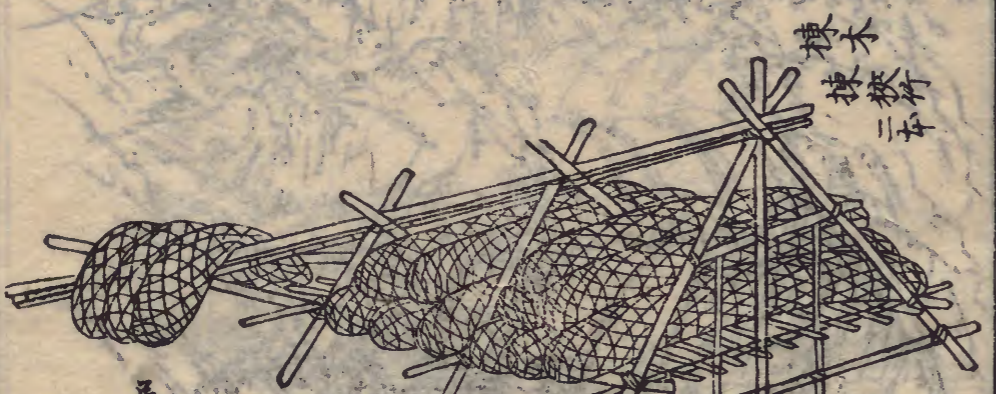
川表水結  
の所  
中野

同尺木半の図

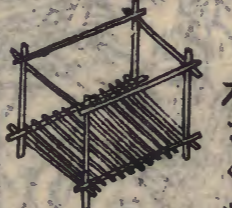


通木  
前後

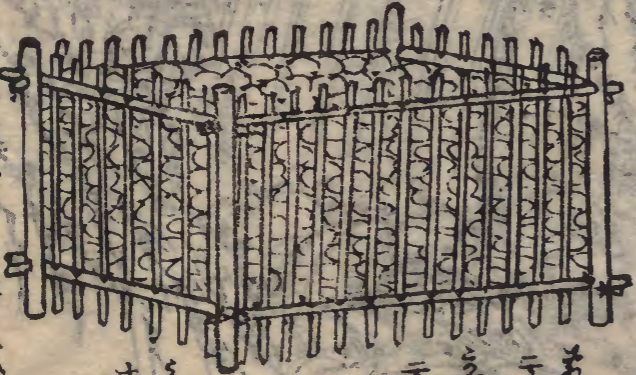
合木  
四組



瓦押  
二  
梁木  
中合木  
三  
合木  
柳  
三  
合木  
前立木  
約木  
砂拂



大くち



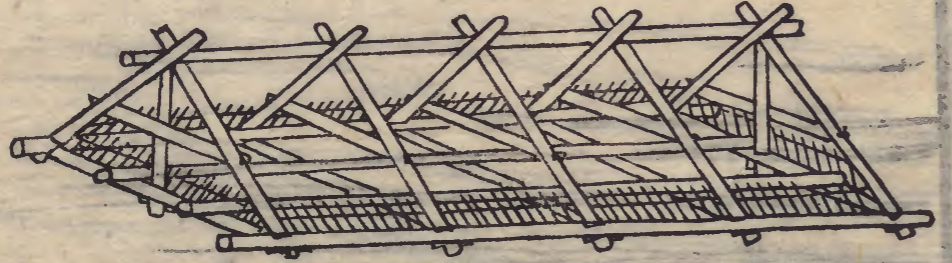
内法  
長

三  
十八  
三  
三  
三  
三





木碓の圖



右圖の如き碓よりあはれびも小河  
井の松のまきも氷落る水の  
下は堀きりり又の山崩れ下り  
土砂石を押し下りて碓に  
碓の心を多く入るは碓の如く  
碓へ入る時やれ場をふせぐ身  
一の碓へ甲別き谷はよま  
用るよ



大井川

諫州  
呂吉川  
安倍河  
大井川  
砂川七  
大井  
中  
の  
湯



大井川



大井川

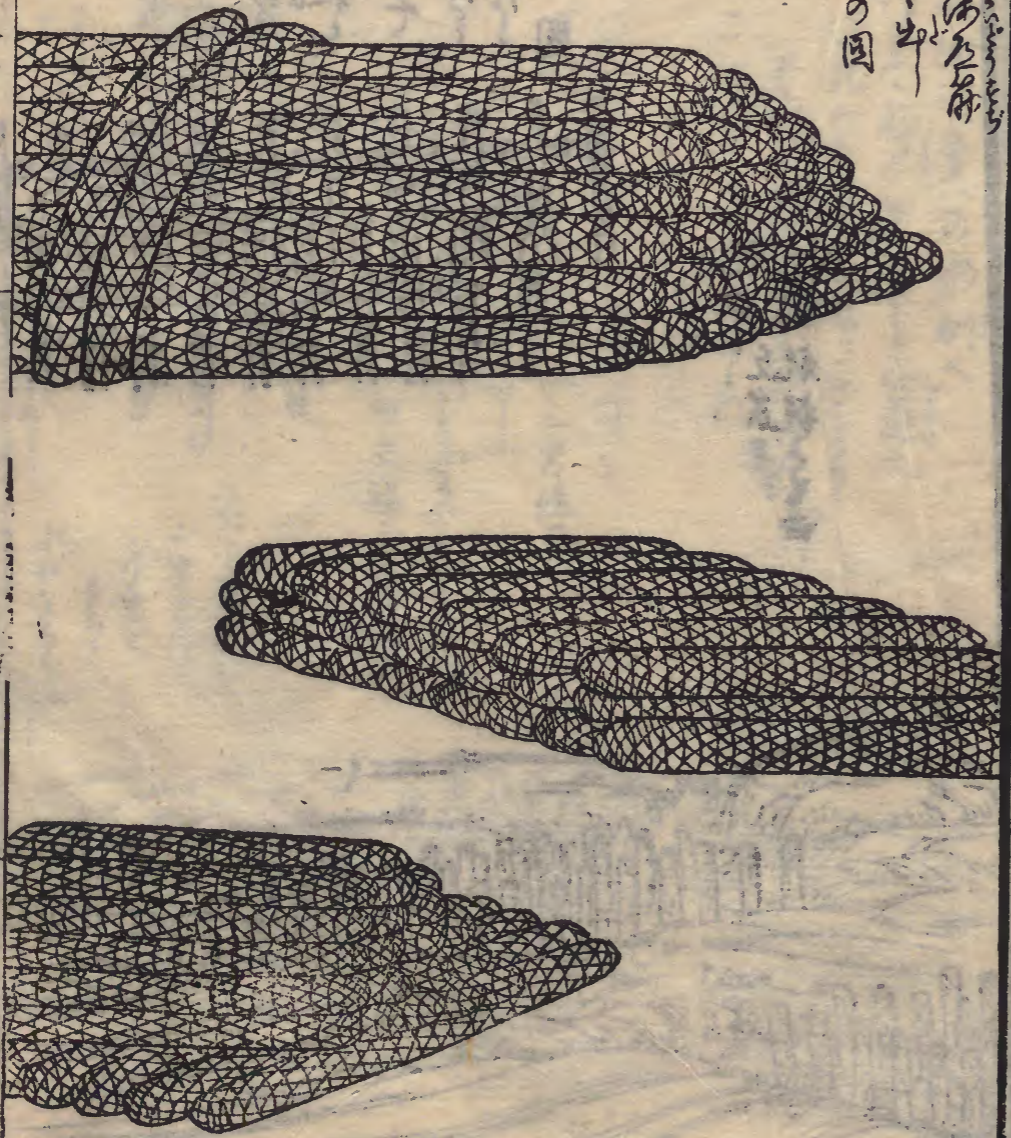


川例留巻之圖

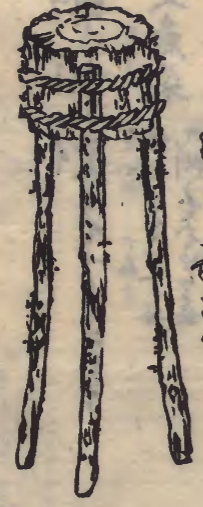
橋下川の押拂又ハ橋杭の  
下流の流矢する所ハ  
通の橋(さき)より身一の橋



川  
の  
網  
の  
図







杉櫓木  
けこ  
はこ  
小の  
小の  
小の

泥川沙川舟一の水刺  
石川を松ノ  
○ 杭のチ方を通り  
○ 杭本長六尺位  
○ 八九尺の  
○ 式  
○ 式



歩  
杭を  
竹  
か  
た  
図  
杭  
但  
杭



箕束置出の図

國のゆく萱うてすのち

又麻采 畿内にて芝と云 九州と云

と云事あり

住するの麻采の小口を川向う

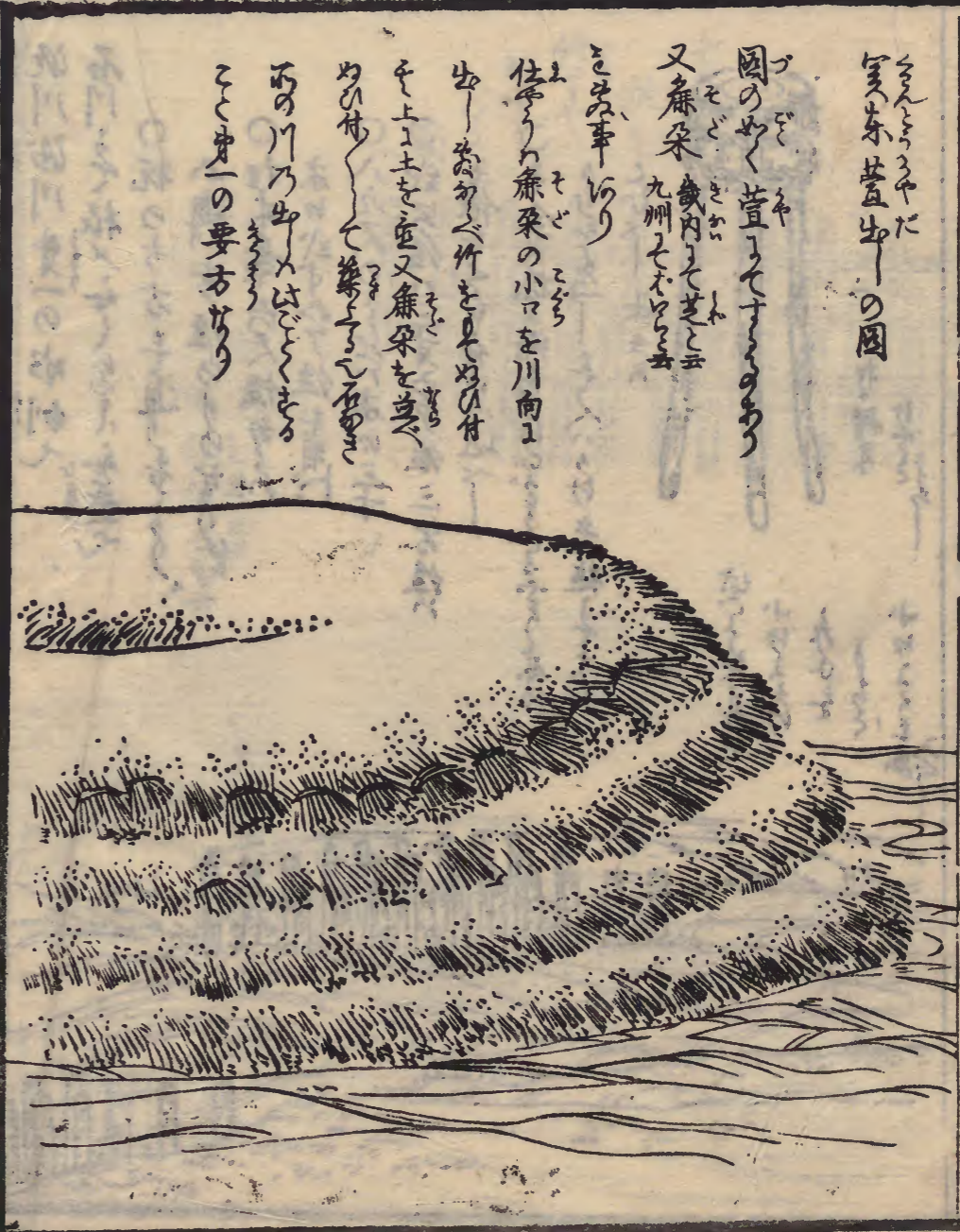
出し給ふ竹をとりぬひ竹

をよ上土を直又麻采をま

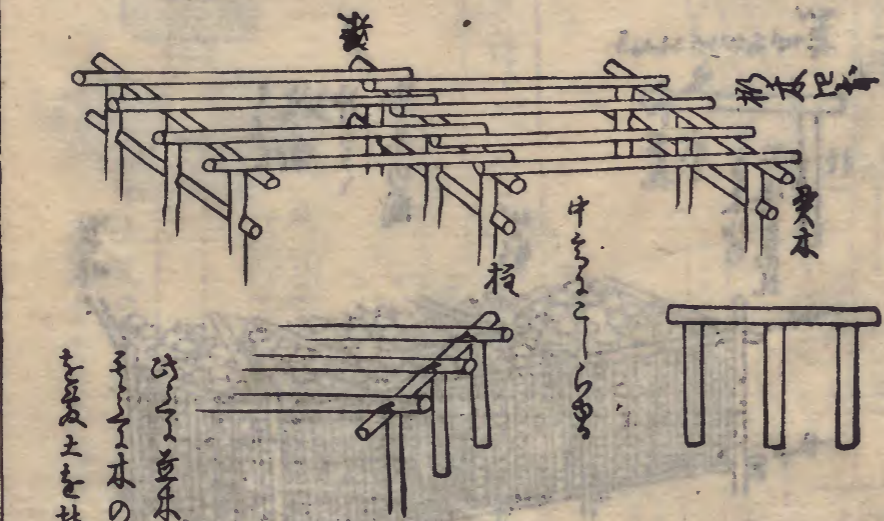
ぬひ竹とて給ふと云事あり

西の川乃出ぬはとてさる

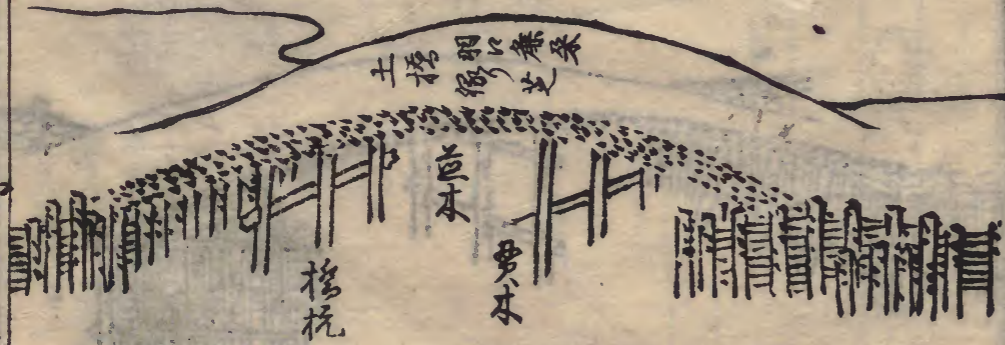
こと身一の要方なり



土橋の圖



ひんぎ草束をあらふ  
まじり木の枝を草束  
をまじり土を拵たり

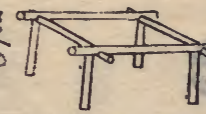








機  
の  
図



長短の  
あが



は一  
たの  
の  
本の  
の  
を



機  
の  
図

香  
の  
雪  
堤



川谷





右ノ著ル川普清の岡ハ誠ニ予ガ見聞ノ事ニ  
中々記シテハ信ズルニ可ク然レドモ  
其ノ事ハ予ガ所ニシテハ夫々トモ  
何レハ此ノ板橋植井路ノ普清亦何レドモ  
よき〜〜〜附録ニ出ルベシ只農家急務  
一冊〜〜〜思ふ〜〜〜微志ニ志  
るレの〜〜〜

農稼業事後編卷之五大尾

發行

- 江戸日本橋通二丁目 須原屋茂兵衛
- 同二丁目 山城屋佐兵衛
- 同芝神明前 岡田屋嘉七
- 京御幸町御池南 菱屋孫兵衛
- 大阪心齋橋南二丁目 敦賀屋九兵衛
- 同安堂寺町 敦賀屋彦七
- 同堺筋金田町 象牙屋治郎兵衛

書房



